

東アジアの祭祀伝承と女性救済



[東アジアの祭祀伝承と女性救済_下载链接1](#)

著者:野村伸一 編著

出版者:風響社

出版时间:2007-8

装帧:精装

isbn:9784894891203

地獄の亡母を救う目連の伝承は、盂蘭盆会への起源とも言われ、東アジア各地で女性救済の文化に豊かなバリエーションを与えている。本書は日中韓の祭祀・芸能の諸相から、死生観や靈魂観、さらに文化史の再考をも迫る注目の論集である。

作者介绍:

野村 伸一（のむら しんいち）

1949年生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学。文学博士。

現在、慶應義塾大学大学文学部教授。

著書に『韓国の民俗戯』（平凡社、1987年）、『巫と芸能者のアジア』（中央公論社、1995年）、編著『東アジアの女神信仰と女性生活』（慶應義塾大学出版会、2004年）、など。

田仲 一成（たなか いっせい）

1932年生まれ。東京大学大学院博士課程単位取得退学。文学博士。

現在、東洋文庫研究員、東京大学名誉教授、日本学士院会員。

著書に『中国祭祀演劇研究』（東京大学出版会、1981年）、『中国巫系演劇研究』（同、1993年）、『中国演劇史』（同、1998年）など。

馬 建 華（マ ジェンファ、Ma Jian Hua）

1953年生まれ。中国山東大学中文系修士課程修了。修士。

現在、福建省芸術研究所研究員兼福建師範大学文学院修士課程指導教授。

著書に『蒲仙戯与宋元南戯、明清伝奇』（中国戯劇出版社、2004年）、『蒲仙戯史論』（共著、中国戯劇出版社、2006年）、「宋元民間目連戯的?一種形態」（『戯曲研究』、2006年）など。

道上 知弘（みちうえ ともひろ）

1973年生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学。

現在、慶應義塾大学文学部非常勤講師、東京大学教養学部非常勤講師。

翻訳に徐曉望「福建省における女性の生活と女神信仰の歴史」（『東アジアの女神信仰と女性生活』、慶應義塾大学出版会、2004年）、葉明生「女神陳靖姑の儀礼と芸能伝承」（同前書）、葉明生「蒲仙傀儡北斗戯と民俗、宗教の研究」（『日吉紀要・言語・文化・コミュニケーション』No.30、2003年）、葉明生「福建民間傀儡戯の祭儀文化の特質について」、（同前紀要No.32、2004年）など。

李 京 [火+華]（イ ギョンヨプ、Lee Gyung Yup）

1963年生まれ。韓国全南大学大学院博士課程単位取得退学。文学博士。

現在、韓国木浦大学国文科教授。

著書に『巫歌文学研究』（パギジョン、1998年）、『珍島タシレギ』（國立文化財研究所、2004年）、『地域民俗の世界』（民俗苑、2004年）など。

川島 秀一（かわしま しゅういち）

1952年生まれ。法政大学修了。

現在、リアス・アーク美術館学芸係長。

著書に『ザシキワラシの見えるとき』（三弥井書店、1999年）、『憑霊の民俗』（三弥井書店、2003年）、『漁撈伝承』（法政大学出版局、2003年）、『カツオ漁』（法政大学出版局、2005年）など。

鈴木 正宗（すずき まさたか）

1949年生まれ。慶應義塾大学大学院博士課程単位取得退学。文学博士。

現在、慶應義塾大学文学部教授。

著書に『スリランカの宗教と社会』（春秋社、1996年）、『神と仏の民俗』（吉川弘文館、2001年）『女人禁制』（吉川弘文館、2002年）など。

目録: はじめに

研究活動一覧

●第一部 概説篇

序章 祭祀芸能史からみた目連戯

一 「妣が国」、そして「目連救母」からの伝言

二 目連救母の芸能へ

第一章 目連伝承と目連戯

一 目連伝承と目連戯の違い

二 目連戯の範囲と研究課題

第二章 東アジアの盂蘭盆会の歴史と目連戯

一 東アジアの盂蘭盆会の歴史

二 中国の目連戯の歴史——鄭之珍本まで

三 中国各地の目連戯とその背景

四 中国の目連戯の動因

第三章 宗教劇としての目連戯

一 目連戯に伴う宗教儀礼の再構成

二 宗教劇としての認識

第四章 蒲田の目連戯と観音の考察——事例研究を通して

一 蒲田の目連戯について

二 観音の登場と女性の救済——福建目連戯の事例研究を通して

第五章 東アジアの目連救母伝承とその周辺の祭儀

一 朝鮮の目連救母伝承と女性救済の演戯

二 日本の目連救母伝承と目連の芸能

三 朝鮮に目連戯のない理由

第六章 まとめ——目連戯に込められたもの

参考文献

●第一部 概説篇 付録A 日誌——目連戯の事例ノート

事例1 台湾の葬礼にみられた目連戯

事例2 盂蘭盆会の傀儡目連——福建省蒲田市坂尾村?子廟

事例3 拝懺功德としての傀儡目連

——福建省仙游県楓亭鎮斗北村大浦（図録3 参照）

事例4 観音涅槃のための傀儡目連

（福建省南安市霞美鎮四黄村草亭寺、図録4 参照）

事例5 シンガポールの目連戯と塔懺（図録5 参照）

●第一部 概説篇 付録B 図録

図録1 台湾の目連戯

図録2 福建省の目連戯

図録3 福建省の目連戯

図録4 福建省の目連戯

図録5 シンガポールの目連戯と塔懺

図録6 仙遊の転載

図録7 蒲田県黄石鎮北極殿の普度

●第二部 論考篇

演劇史における目連戯 田仲一成

序 目連戯の社会的機能——功德法事と斎?儀礼

一 郷村演劇の脚本——七巻本——古本系

二 宗族演劇の脚本——鄭之珍本

三 市場地演劇の脚本——前目連から連台長編本へ

四 結語

女性の救済——蒲仙目連戯と『血盆経』 馬建華（道上知弘訳）

はじめに

一 地区の祭祀、超度の歴史的背景

二 『血盆経』から導き出された「戯中超度」

三 蒲仙に流传する『血盆経』とその目連戯への影響

四 目連戯は『血盆経』をいつ受容したか——『血盆経』の変容からの推測

五 「目連救母」と『血盆経』の内容を取りこんだ宗教儀礼

おわりに

韓国の目連伝承と盂蘭盆斎 李京〔火+華〕（道上知弘訳）

はじめに

一 目連伝承の類型

二 仏教儀礼の特性と薦度儀礼

三 盂蘭盆斎の性格と靈魂救済の意味

四 盂蘭盆斎を通して見た女性の宗教文化史的位相

結び

巫女が伝える目連救母伝説——陸前北部の「口寄せ」縁起 川島秀一

はじめに

一 大乘寺縁起の成立過程

二 巫女が語る「目連救母伝説」

三 「太子の本尊」と口寄せの現場

四 口寄せで語られた「目連救母伝説」の祭文

神楽の中の目連とその比較 鈴木正崇

はじめに

一 中国での目連の展開

二 日本での目連の展開

三 備後の『目連の能』

四 『目連の能』の内容

五 『目連の能』の特徴

六 『目連の能』の時代背景

七 比較の可能性

八 目連戯私見

索引

・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[東アジアの祭祀伝承と女性救済 下载链接1](#)

标签

民間信仰

東亞史

女性史

评论

[東アジアの祭祀伝承と女性救済 下载链接1](#)

书评

[東アジアの祭祀伝承と女性救済 下载链接1](#)